

対象	小学生～中学生の保護者
方法	参加型ワークショップ
時間	45分程度（臨機応変に）
ねらい	・「学校への行きづらさ」が見えた子どもへの向き合い方を考える。「いじめ」や「不登校」はベースとしてあるが、文言としては表記しない。 ・子ども自身もどうしていいかわからない気持ちに共感・受容し、今の状況で感じる幸せや満足感を得る。 ・子どもにとって学校以外の居場所を持つことの大切さを理解し、家庭は子どもにとって一番の居場所であることを認識してもらう。
進行のポイント	・笑顔で、ゆったり、参加者同士の会話を大切にしましょう。 ・「書きたくない、言いたくない時は無理をしないでくださいね」と言っておきましょう。 ・評価や否定をすることなく、参加者と同じ目線で寄り添いながら進めましょう。
事前準備	①「親のみちしるべ」 ②ペン・マジック ③付箋紙 ④模造紙 ⑤名札 ⑥アンケート

ワークショップの基本的な流れ

時間	段階	内容・参加者	形態	M→メインファシリテーター G→グループサポーター	留意点	備考
	受付	◇受付・グループの確認 ◇名札の作成（ニックネーム等）	一斉			
10分	導入	①親のみちしるべのプログラムについての説明 ◇親のみちしるべのルールについて理解する。 ②グループ内で自己紹介 ◇アイスブレイク	グループ	M◇笑顔であいさつ MG◇ファシリテーター等 紹介 M◇プログラムの趣旨説明 MG◇ルールの確認 MG◇グループで自己紹介 MG◇アイスブレイク	・明るい雰囲気を作り、笑顔で対応する。 ・言葉が多くなり過ぎないようにする。 ・簡単なアイスブレイク実施	・ワークシート等、資料の確認
30分	展開	③グループワーク1 ◆カケル君のエピソードを読み、カケル君の気持ちを考える。学校生活の中で思いつく出来事を想起する。 ④ソロワーク2 ◆成長期である子どもが自分の気持ちを認識し表現することは難しいことを理解してもらう。 自身の子どものいいところや、どんなことに興味を持っているか、楽しいと感じることや好きなことは何かを改めて見つめ直し、子どもの心の居場所を考える。 ⑤グループワーク3 ◆カケル君のエピソードに戻り、カケル君が元気を取り戻すためにどんなことをしてあげたいかを考える。 ・質問項目に対し、自分の考え等を付箋紙に記入したり、話したりする。 ・グループ毎に出された意見を、全体で共有する。	グループ	M◇ワーク1【ポイント】 ◆自分の気持ちをうまく表現できないでいるカケル君に共感し、想像してみるよう声がけする。 M◇ワーク2【ポイント】 ◆学校への行きづらさが見えた時に、その状態ばかりに気を取られがちであるが、まず本来の子ども自身を見てあげることが大事であることを伝える。それが子どもへの理解を深める糸口になる。 G◇見守り M◇ワーク3【ポイント】 ◆子どもにとって学校以外の居場所を持つことの大切さを理解し、ポジティブな思考（今の状況で感じる幸せや満足感）を持てもらう。 家庭は子どもにとって一番の居場所であることを認識してもらう。 G◇グループワークの見守り。必要に応じて声がけ。 M◇グループ毎に発表してもらう。	・文章形式にこだわらず、箇条書きで良いことを伝える。 ・互いに多くの意見交換ができるように促す。 ・出された意見に共感しながら進める。	・ワークシート ・付箋紙 ・ペンマジック ※模造紙
5分	まとめ	⑥振り返り ・ファシリテーターのまとめの話を聞く。 ・アンケートの記入。	一斉	M◇普段からの子どもとのコミュニケーションの大切さを話す。 ・ワークシート資料について説明する。時間がなければ、後ほど読むように呼びかける。	・参加者の考えや意見に共感しながら簡単にまとめる。	・アンケート回収